

## 1-(1) 法人本部

### I. 2022（令和4）年度事業の概要

学校法人東京国際大学は、「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、東京国際大学、東京国際大学附属日本語学校、一橋学院早慶外語という三つの設置校を通じて教育事業を展開している。

2022（令和4）年度は、年初の日本入国制限の撤廃を皮切りに、各設置校とも、授業形態、クラブ活動、留学、進学や就職活動、各種イベント、教職員の職務など、新型コロナウイルス感染防止対策を取りつつも、段階的に平常化を図り、年後半には多くの分野において平常の事業運営に近いレベルまで回復できた。とりわけ国際交流面に於いて、対面形式で開催した国際シンポジウムをはじめ、駐日インドネシア特命全権大使による大学キャンパスでの特別講演や駐日バンラデッシュ特命全権大使の表敬訪問等が実現し、当学校法人の国際的信用高揚に繋がった。

2023（令和5）年9月開設に向けて東京国際大学池袋キャンパスの建設は予定通り順調に進んだ。合わせて大学運営効率化を図るため多拠点間連携ITインフラの整備を更に進めることができた。

### II. 事業項目

#### 1. 組織・体制

##### (1) 東京国際大学の組織・体制拡充

2022（令和4）年度より、商学部320人増、人間社会学部80人増の収容定員増が文部科学省に認可されており、東京国際大学の収容定員は7,240人から400人増員の7,640人となったが、追加で2023（令和5）年度より人間社会学部で25人の入学定員数の増員が認可された。これにより学部入学定員数は1,935人となり、収容定員数は7,740人となる。

#### 2. 施設・設備

##### (1) 東京国際大学池袋キャンパスの建設

2023（令和5）年5月竣工、同年9月開設に向け、校舎建設工事を進めている。2022（令和4）年度末の進捗率は計画どおり92.3%となっている。

#### 3. 財務

##### (1) 資金運用

東京国際大学池袋キャンパス竣工、引き渡しを控え、金融資産は全額現預金にて保有した。

## 1-(2) 東京国際大学

### I. 2022（令和4）年度事業の概要

東京国際大学は「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

2021 年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、感染拡大防止の対策を徹底し、対面を中心とした授業運営を行うとともに、スポーツ系部活動などの課外活動の通常化に向けて取り組んだ。留学派遣についても、各国の状況を精査し、順次再開した。学生募集においては、対面のオープンキャンパスを中心に、Web オープンキャンパスやオンライン相談も組み合わせ、受験生・保護者との接点拡大に努めた。入試では、会場実施を軸としつつ、首都圏外の受験生を対象としたオンライン面接や在宅での CBT 入試方式を実施し、広域での志願者・入学者の確保を図った。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ 2 学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。2022（令和 4）年 5 月時点の体育会系クラブ所属学生数は 1,052 名、全学部所属学生の約 17%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し多様な施策を展開している。2014 年度（平成 26 年度）にスタートした英語で学位取得可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（E トラック）」には、2022（令和 4）年 10 月時点で世界 73 ヶ国から 1,355 人の学生が在籍、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）には、50 人を擁し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。ASP 以外にも ISEP 交換留学をはじめ多様な留学プログラムを拡充し、学生の多様な留学ニーズに対応している。

本学教育事業基盤については、商学部経営学科、人間社会学部福祉心理学科の定員増が認可を

受け、2022（令和4）年度から100名の入学定員増となったと同時に、データサイエンスに強みを持つ即戦力ビジネス人材を育成することを目的として、商学部データサイエンスコース・グローバルデータサイエンスコースを設置した。さらに、人間社会学部人間スポーツ学科およびスポーツ科学科の定員増が認可され、2023年度から25名の入学定員増となる。これらにより、全体の収容定員としては7,740名を数えることとなった。

建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動を推進している。日本文化研究所では、文化講演会の開催等、日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育を展開している。

副都心池袋に本学のグローバル化教育の機能を集約した都市型キャンパスを開設する。2020（令和2）年10月に土地の引渡しを受け、2023（令和5）年9月開校を予定する。

## II. 事業項目

### 1. 教育内容の充実

#### (1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。</li><li>● サッカー部、女子サッカー部、駅伝部、ウエイトリフティング部、硬式野球部、女子ソフトボール部、ゴルフ部、硬式庭球部、アメリカンフットボール部、剣道部、チアリーディング部、アーチェリー部を強化スポーツクラブに指定。</li><li>● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。</li><li>● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面</li></ul>

	での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を設置している。
--	--

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① イングリッシュ・トラック・プログラム (Eトラック) 拡充

実施事項：	英語で学位取得が可能なEトラックを学部・大学院に設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学部では、2014（平成26）年度より経済学部及び国際関係学部横断でEトラックを設置、「Business Economics Major」及び「International Relations Major」の二主専攻（Major）を設置した。</li> <li>● また、2019年秋学期には、第三の主専攻（Major）として「Digital Business &amp; Innovation Major」を新設、2020年度から本格的な学生募集を開始した。</li> <li>● 大学院では、商学研究科、経済学研究科、国際関係学研究科にてEトラックを設置している。</li> <li>● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、2022（令和4）年10月時点で、世界73ヶ国から1,355人の学生が在籍している。</li> <li>● Eトラック推進のため、教員組織の強化に加え外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる。</li> <li>● ベトナム、インドネシア、タイに現地事務所を開設する等、世界各国からの学生募集に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>

② グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) 事業展開

実施事項：	英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) による英語教育強化。
-------	--

事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● GTI所属英語ネイティブ教員は50名の体制。</li> <li>● 学長直轄組織として活動対象は言語コミュニケーション学部に留まらず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。2018年度（平成30年度）には、人間社会学部のグローバルスポーツ・プログラムの担当もスタートした。</li> <li>● 65分週3回、1クラス10人前後の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。</li> <li>● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、ネイティブ教員を常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。</li> </ul>
-------	--

③ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）の事業展開

実施事項：	日本語教育組織ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）によるEトラック学生の日本語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織JLIを設置している。</li> <li>● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム（JSP）在籍学生の日本語教育を専担する。</li> </ul>

④ アメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）の充実

実施事項：	ウィラメット大学で開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）を本学の旗艦留学プログラムと位置付け、GTIによる教育との連動等教育効果の向上を図っている。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学（米国オレゴン州）にて開講されるASPには、これまでに約3,300名の学生が参加し、毎年約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル</li> </ul>

	<p>化教育の柱となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍により一時中断していたが、この機会にプログラムを再構築し、2023（令和5）年1月に再開した。</li> </ul>
--	---

(3) 建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動の推進

① 日本文化研究所主催の教育・啓蒙活動の推進

実施事項：	日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育の展開。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本の文化と世界」を共通テーマとする講演会を例年開催。2022度はコロナ禍で開催を見送った。</li> </ul>

② 国際シンポジウムの開催

実施事項：	第10回国際シンポジウム「日本と世界 Part7」を開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高村正彦元外務大臣、ハーバード大学ジョセフ・ナイ特別功労教授、国際政治学者・株式会社山猫総合研究所代表三浦瑠麗氏による講演・パネルディスカッションを実施。現在の世界を取り巻く情勢について活発な議論が交わされた。</li> </ul>

(4) キャンパス内外におけるジェネリック・スキルの涵養

① 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたことを契機に全学的に取り組んでいる。</li> <li>● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域を越えたまちづくりコンテストにも積極的に参加、コンテストでの受賞にもつながっている。</li> </ul>
--	--

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。</li> <li>● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。</li> </ul>

③ 学生スタッフ成長プログラム

実施事項：	大学内で働く学生を計画的に育成していくことにより、学生の力を大学で活用していくとともに学生自身の就業力を強化する。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学生活デザイン演習の授業サポートを担うスチューデントファシリテーター（SF）を拡充し、対面授業およびオンライン授業に対応している。</li> <li>● また、キャンパスのグローバル化推進に学生スタッフを全面的に巻き込むため、スチューデント・リーダーシップ・インターンシップ（SLI）も推進、English PLAZAやJapanese PLAZAの運営等に中核となって参加している。</li> <li>● 学生スタッフを育成し活用していくために「学生スタッフ成長プログラム」を継続実施。SFやSLIメンバー、オープンキャンパス・スタッフ等が参加し、Jトラック・Eトラックの学生交流の場としても機能している。</li> <li>● ジュニア・ミドル・トレーナーという3段階のレベル</li> </ul>

を設定し、能力向上を促進している。

## 2. 卒業後進路の開発

### (1) 就職支援体制の強化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制拡充。 オンライン化にも迅速に対応。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置した。</li><li>● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。</li><li>● Eトラック学生に対しては、一年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけていく。また、インターンシップ・プログラムも拡充している。</li></ul>

### (2) 教職支援センターの設置による学生サポート強化

実施事項：	教員志望の学生に対する情報提供、教員採用試験受験の支援のため教職支援センターを設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 教育行政に永年勤務経験を持つ指導員が常駐。</li><li>● 教員採用試験に関する個別相談、教員採用に関する情報・資料提供、教員採用試験に関する対策講座等の開催、「教職支援セミナー」の開催等。</li></ul>

## 3. 教育事業基盤の拡充

### (1) 収容定員増認可

実施事項：	学部志願者増に対応して、人間社会学部人間スポーツ学科およびスポーツ科学科の収容定員増認可申請を行い、2022
-------	--



	(令和4)年8月に入学定員25名増で認可された。
事業内容：	● 2022 (令和4)年3月収容定員増申請書提出。8月認可。

#### 4. 施設・設備の整備

##### (1) 池袋キャンパス建設計画

###### ① 計画概要

設置プログラム、学部等	経済学部、国際関係学部、言語コミュニケーション学部を中心に移転を計画。商学部に関しても一部コースの池袋開講を企画。	
校地	地区名	豊島区造幣局地区 (市街地 A 画地)
	所在地	東京都豊島区東池袋四丁目 3277 番 202 の一部
	地積	10,000.05 m <sup>2</sup>
	引渡し	2020 年 10 月
校舎	階数	地上 22 階
	延床面積	約 35,000 m <sup>2</sup>
	工期	2020 年 11 月～2023 年 5 月
	開校	2023 年 9 月

###### ② 機関決定の経緯

2013 年 5 月 29 日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017 年 7 月 3 日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017 年 10 月 23 日	理事会にて豊島区造幣局地区 (市街地 A 画地) 土地譲渡契約の締結を承認
2017 年 11 月 7 日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018 年 1 月 12 日	理事会にて池袋キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結を承認
2018 年 4 月 9 日	理事会にて池袋キャンパス収容定員構成計画及び学部入学定員中期拡充計画を決議

以 上

## 1 - (3) 東京国際大学附属日本語学校

### I. 2022 年度の事業の概要

我が国の水際対策が緩和され留学生の入国が可能となつてから入学志願者数も徐々に増加し、コロナ前の 50%水準まで回復した。しかしながら国際情勢の変化や物価高騰等の要因により留学生数の戻りが遅かったため、既存の学生募集チャンネルだけではなく新規開拓して学生獲得を図った。

学校運営に当たっては、対面授業を原則としつつ、入国後の自宅待機期間中やコロナ陽性者または濃厚接触者となった際の自宅待機期間中に学生がオンライン授業を受講できる体制を継続し、「進学に強い日本語学校」を堅持するため、学生一人一人に目が届く丁寧な教育と親身な学生支援を実践した。加えて、コロナ感染症蔓延が落ち着いてから、一部の課外活動や校外イベントを実施。日本語学習以外で日本文化に触れる機会を提供した。

### II. 事業項目

#### 1. 正規課程 入学者数実績

課 程	日本語教育課程 A	準備教育課程※	日本語教育課程 B
授業時間	全日制(週 26 コマ)		半日制(週 20 コマ)
入学時期	4 月 (1 年コース) 41 人		4 月(1 年、2 年コース) 22 人
就学期間	7 月 (1.9 年コース) 14 人		
	10 月 (1.5 年コース) 46 人		10 月 (1.5 年コース) 17 人
合 計	140 人		

※準備教育課程：高校修了まで 12 年を要しない国の学生を対象として、日本の大学入学資格を与えるための、文部科学省の指定を受けた課程。2022 年度入学者数実績 4 月期生 1 人、10 月期生 5 人、計 6 人。

#### 2. 正規課程 国別入学実績

2022 年度	台湾	韓国	香港	ベトナム	フィリピン	インドネシア	マレーシア	その他	合計
4 月期生	20	16	6	10	6	1	1	3	63
7 月期生	11	1	0	0	1	0	0	1	14
10 月期生	26	14	6	1	2	2	4	8	63
合 計	57	31	12	11	9	3	5	12	140

#### 3. 短期聴講 (1 か月～3 か月)

- ・入学者数実績 7 月期生 3 人、10 月期生 7 人、1 月期生 7 人、合計 17 人
- ・プライベートレッスン 1 人

#### 4. 日本語能力試験（JLPT）合格率

- ・2022年第1回合格率：N1 88.9%，N2 73.9%，N3 75%（全国平均合格率：N1 24.3%，N2 26.4%，N3 42.0%）
- ・2022年第2回合格率：N1 70%，N2 54.5%，N3 76.6%（全国平均合格率：N1 25.9%，N2 26.4%，N3 34.6%）

#### 5. 進路指導

- ・進学率 大学+専修学校 合わせて 63.5 %

- ・進路ガイダンス

（2023年度入試対象学生向け）

- 第2回 6月 専門学校を選び方、オープンキャンパス参加の呼びかけ
- 第3回 6月 大学を選び方、オープンキャンパス参加の呼びかけ
- 第4回 7月 校内進路説明会フォローアップ、夏期休暇中に行うべき受験準備
- 第5回 8月 指定校推薦の出願方法説明

（2024年度入試対象学生向け）

- 第1回 11月 受験スケジュール概要説明
- 第2回 11月 大学受験に必要な日本語以外の基礎科目選択について
- 第3回 2月 第1回日本留学試験受験の促進

- ・校内進路説明会・相談会(大学はオンライン、専門学校は対面)実施 7月4日

大学：6校、専門学校：6法人(13校)参加

- ・進路相談室通信(No.22～No.23、不定期発行)

- ・進路状況

2022年度	台湾	韓国	香港	ベトナム	フィリピン	インドネシア	マレーシア	その他	合計
大学院		1							1
大学	4	3	2					1	10
専門学校	13	1	4	2				2	22
就職	1		2		1				4
帰国	2	5	1						8
その他	3	3	1						7
合計	23	13	10	2	1	0	0	3	52

#### 6. 告示基準第1条第1項第44号（各年度の課程修了の認定を受けた者について）関係報告

課程修了者の日本語能力習得状況等	基準適合性
第44号：大学等への進学者，入管法別表第1の1の表若しくは第1の2の表の上欄の在留資格（外交・公用及び技能実習を除く。）への変更を許可された者及びCEFR・A2相当以上と認められる者の合計が、課程修了の認定を受けた者の7割以上	○

基準該当者割合 ②÷(①+③)	90.2%
課程修了者数 (※1, ※2) ①	46
基準該当者合計数 (実人数) ②	46

左記「基準該当者合計数 (実人数)」のうち退学者数 (44号ただし書き) ③	5
--	---

※1 退学者は含めない。

※2 各年度の課程修了の認定を受けた者が、その修了日までに入管法別表第1の1の表若しくは第1の2の表の上欄の在留資格(外交、公用及び技能実習を除く。)への在留資格変更許可申請をした場合において、当該申請に対する処分が、この号に基づく地方出入国在留管理局への報告までになされないときは、当該者を分母となる課程修了認定者の数に該当する者として加える必要はない。

以 上

## 1-(4)一橋学院早慶外語

### I. 2022（令和4）年度事業の概要

創立 71 周年を迎えた 2022（令和 4）年度も、「いちばん行きたい大学へ。」のスローガンのもと、講師は少人数制授業を中心として、質問や添削などのサポートも引き続き行った。担当チューターは、生徒や保護者の希望を尊重しながら、進学までのフォローを行った。

18 歳人口減少の中、コロナ禍が重なり、映像のみでの授業を行う塾・予備校が乱立するなど厳しい環境が続くが、一人ひとりの希望実現に向け教職員が一致団結して指導にあたっている。

### II. 事業項目

#### ①レギュラー授業

##### （1）高卒生コース

総合予備校として、国公立大文系、国公立大理系、私立大文系、私立大理系の各系統で難関大をはじめとする各自の希望の大学に応じたクラスを設置した。旧帝国大や一橋大などの難関国公立大や、早慶上理などの私立難関大へ前年並みの合格者を維持した。

##### （2）高校生コース

単科で受講できるよう配慮しながら学力レベルに応じた講座を設置し、高 3 生を対象とした東大・一橋大プライムゼミ等の難関大向けの授業や、基礎学力を養成するドリル形式の講座（「個別演習トレーニング」）等も組み入れ、受験を迎える生徒のさまざまな「個」のニーズに応えている。

##### （3）メディカルコネクト

2019（令和元）年度に新たに医学部専門予備校として開校した「一橋学院メディカルコネクト」は 4 年目を迎え、生徒数も堅調に増加した。

高卒生ではレギュラー授業以外にも、個別指導やコーチングなどの事業を展開した。また、高校生は個々の状況に合わせた指導を行った。

個別学習計画の管理など、担当チューターにより、少人数制の特性を活かしたきめ細かな指導を継続的に行い、今年度も高い合格率を実現した。

#### ②講習会

##### （1）「春期講習」

総講座数 33 講座。4 月からの予備校選択と、基礎的な学力補強のためにコンパクトな講座を主体に編成した。

##### （2）「夏期講習」

総講座数 88 講座。「前期の総まとめ」や最新の入試問題に触れる機会として、志望大学別・レベル別講座を設置し、受講生のニーズに合う講座を編成した。また、新規入学者の 2 学期募集という側面も有した講座設置を行った。

(3)「冬期講習・直前講習」

総講座数 104 講座。高3・高卒生に対して、共通テスト対策および私大・2次試験向けの志望校別対策をメインに講座を編成した。高1・高2生に対しては、早期からの受験対策をアピールすべく実施した。

Ⅲ. その他

①校外に向けた予備校の周知を行うために、次の事業を実施した。

(i) 3月、5月に大学フェアで講演を行った。

(ii) 医学部合同説明会に参加し、セミナーや個別相談などを行った。

(iii) 高等学校で講演会や出張授業等を行った。

②変容する大学入試に対処すべく次年度に向けてカリキュラムの改定を実施した。また、翌々年度に向けて、新課程入試に対応するカリキュラムの検討を開始した。

以 上